



未来への責任

かわい昭成

滋賀県議会議員

あきなり

すべてのひとが輝くために可能性を実現できる滋賀へ

令和元年 9月定例会議 一般質問

SDGsの取り組みについて

SDGsの考え方を軸に県政を進める滋賀県として、特定の事業だけでなく、すべての事業で、社会や環境への影響を勘案し、必要があれば、「予算をつける」「労力をかける」などバランスをとる視点が重要であると考え、その一歩目として見える化することを提案しました。

Q 県のすべての政策・施策・事業について、SDGsの視点で考えたプラスの面とマイナスの面を明示し「見える化」することについて見解を伺う。

A SDGsでは「経済」「社会」「環境」の3側面、そのプラス面とマイナス面を総合的に考えてバランスを取ることが求められます。県政運営においては、SDGsの視点を踏まえて、各分野の計画策定や次年度に向けた主要施策の構築の検討を行うようにしています。こうした分野別計画、施策や事業については、予算の公表説明や、啓発パンフレットの作成などにおいて、関連するSDGsのゴールを記載するなどしていますが、プラス面とマイナス面のバランスの検討も含めて「見える化」する観点など、今後よりわかりやすく伝える方法について考えていきます。

SDGs 持続可能な開発目標って?!

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組む普遍的なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。



大分県宇佐市(株)ドリームファーマーズ JAPAN 視察

地方創生・しがブランド推進対策特別委員会 視察

おおいた留学生ビジネスセンター視察

今年も非常に暑い夏でした。夏は過ぎましたが、秋らしい過ごしやすい気候の時期が短くなっているように感じます。気候変動に向き合う取り組みが求められています。

行政において様々な課題に対し何が出来るのか?今取り組んでいることは理にかなっているのか?不断の見直しが必要です。いち早くSDGsへの取り組みを表明した滋賀県。この視点を常に大事にし、10年、20年先を見据えた政策提案を行いながら、より住みよい社会、次の世代に胸を張って引き継ぐことができる社会を目指し、皆様とともに活動を進めてまいります。引き続きの皆様のご指導ご鞭撻をお願いいたします。

学校におけるICT環境の整備について

来年から小学校でプログラミング教育やICT機器を活用した授業が始まります。貴重な学習時間を使うことであり、より効果的な授業となるように、必要なICT環境の整備が求められます。特に市町によってばらつきのある小・中学校について、県としての具体的な取り組みが必要ではないかという観点で質問を行いました。

Q1 小中高等学校におけるICT環境の整備の現状とその評価について伺う。

A1 小中高等学校では、教育用コンピュータなどにおいて、全国と比較して、若干ですが整備が進んでいると認識していますが、文部科学省が示す2022年度までの目標には未達であり、市町や小中高等学校の校種によって整備状況に差があります。

将来社会を見据え、ICT環境の整備は急務と考えていますが、十分ではないため、県教育委員会として、まず県立学校のICT環境の整備にしっかり取り組み、小中学校に関しては、市町教育委員会に働きかけていきます。

Q2 小中高等学校のICT環境の整備の目標数値とその達成時期の目途について伺う。

A2 本県の県立学校におけるICT環境の整備の目標数値は設定していませんが、国の「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画」に沿ったかたちで、計画的に整備を行っていくことが必要と考えています。小中学校については、多くの市町で、それぞれの計画に基づいて整備が進められていますが、まだ十分に進んでいない市町については、一層取組が進むよう働きかけていきます。

Q3 県としてその実現に向けた具体的な取り組みについて伺う。

A3 ICT機器の活用に関しては、学習意欲を高め、子ども一人ひとりの学習状況に応じた学びを進めるといった視点や、個人の学びを集団の中で共有し、多様な考え方に触れながら学びを深めていくという視点などで、大変有効であると認識しています。

しかし、ICT環境の整備は、市町により取組に差があることから、県内のすべての子どもたちが、よりよい環境で教育が受けられるよう、県教育委員会として市町教育委員会にも働きかけ、ともに取り組んでいきたいと考えています。併せて、各学校でのICT機器が最大限活用され学習効果が上がるよう助言していくことで、ICT機器の有効性が広く認識され、ICT環境の整備、充実につなげていきます。

県立学校においては、ICT機器の有効性、汎用性を踏まえつつ、各教科の目標や内容に応じたICTの活用方法を研究し、より効果的に優先度を考えながらICT環境の整備に取り組んでいきます。

Q4 ICT担当の専門スタッフ (ICT支援員) の学校への配置について伺う。

A4 ICTの専門スタッフの配置は、機器の整備にともない、円滑な活用を推進するために重要であり、教員のICT機器活用能力の向上、教員の多忙化解消に、非常に有効であると認識しています。

県内の小中学校においては、専門スタッフの配置は、市町や学校の実状に応じて、各市町教育委員会により行われるべきものと考えています。既に県内には積極的にICT支援員を置き、支援体制を構築し、効果を上げている市町もあり、今後、県教育委員会として、ICT支援員の配置が進むよう、市町へと働きかけていきます。県立学校においては、ICT環境の整備に取り組むとともに、支援員の配置やその活用についても、研究を進めていきます。

2018年度以降の学校におけるICT環境の整備方針で目標とされている水準と現状

	目標	滋賀県	全国平均
学習用コンピュータ1台当たりの児童生徒数	3人/台※	5.2人/台	5.4人/台
普通教室のLAN整備率	100%	41.2%	40.7%
インターネット接続率(30Mbps以上)	100%	96.3%	93.4%
普通教室の大型提示装置整備率	100%	59.0%	51.2%
統合型公務支援システム整備率	100%	39.6%	57.2%

※3クラスに1クラス分程度と表現されている

2018年度の調査結果速報値より抜粋

Profile

滋賀県議会議員

かわい昭成

生年月日 1973年7月22日
住所 大津市国分1丁目
家族構成 妻、長男、長女
趣味 読書 バレーボール 子どもと風呂に入る

好きな言葉 千里の道も一歩から
好きな食べ物 カレーライス

学歴

1992年 神奈川県立横浜翠嵐高等学校 卒業
1997年 早稲田大学 理工学部機械工学科 卒業
1999年 早稲田大学大学院 理工学研究科 修了

経歴

1999年~2018年 東レ株式会社 社員
2008年~2010年 東レ労働組合 滋賀支部役員
2011年~2018年 大津市議会議員
2011年~2014年 国分一丁目一区自治会 会長
2016年~2017年 大津市監査委員
2019年~ 滋賀県議会議員



9月一般質問で登壇

県への政策提案